

## 氷河をわたる風 (2010年12月)

9月下旬、ロッキーの黄葉が盛んな同じ頃、カルガリーの町も黄葉に埋まります。カルガリーの町はロッキー山脈の裾野に位置していて、之より東にカナダ大平原が5000キロ広がります。大平原は草地に覆われているだけです。カルガリーは裾野と大平原のつなぎ目にあって、アスペンや白樺が育つ Garden Prairie とも呼ばれる美しい景観の地です。



カルガリーの町を西に外れると樹木は殆ど育ちません。この辺りは、年中気温の変化の激しいところですが、春の初め、気温が上がり樹木が活動を始めて、水分を吸い上げる頃、俄に気温が下がり水分を凍らせて木を駄目にしてしまうんだそうです。こんな具合に、春の初め樹木を枯らしてしまう程に気温の変化が激しいのですが、冬の間も一日に20℃くらいの変化がざらに起きます。それは、主に南から吹いてくるシヌークと言う風のせいです。

冬はカルガリーの気温は氷点下20℃、30℃まで下がります。雪はあまり多くないのですが、気温は結構下がるのです。アメリカ大陸の地形は西側に高いロッキー山脈があって風を塞いでいますが、南北はメキシコ湾から北極海まで開けっ



ぴろげです。冬、風は北からも南からも自由に吹き渡ります。北から来た風が気温を下げてカルガリーが凍てつくと、十日ばかりしてメキシコ湾から暖かい風、シヌークがロッキー山脈沿いに、真っ黒な大河のような雲を率いて押し寄せてきて、気温を零度前後に上げます。

そんな南風によって、凍っていた雪や氷が溶けます。溶けたままでいてくれれば良いのですが、その後、俄に気温が急冷、氷点下 20℃などになったりすると、溶けた雪が再凍結、道路がスケートリンクのようになって、車の運転は命がけになります。メイン道路は早めに砂をまいてくれますが、間道はつんつるてん、車のコントロールが不可能になります。カナダに来たばかり、交差点で止まれず、もう少しで衝突事故を起こしそうになったり、ブレーキを踏みすぎて180°回転させたり、冷や汗を流したものです。



こんな時、車をぶっつけても人々はあまり怒りません。私も一度慣れた坂を下っているとき、カーブを曲がったら、いつもより長い車の列が突然目の前にありました。ブレーキを踏んだのですが全然掛かりません。止まることが出来ず、ハンドルを山側に切ったが、前の車のバンパーにぶっつけてしまい、もう一つ押し玉突きになりました。これはトラブル



になるかなと、兎に角降りて、二人の運転手と向き合いました。前の車のバンパーがへっこんでいたのですが、こんな位なら良いんじゃないのと、二人ともさっさと行ってしまいました。自分の車も幸いヘッドライトを割っただ



けで助かりました。

冬の話はこれくらいにして、黄葉の事に話を戻します。カルガリー市の黄葉は町の真ん中を蛇行して流れるボー川の両岸が尤も綺麗です。大木のアスペンポプラが密生していて殆どが黄色です。東海岸の砂糖楓のあるケベック、ニューブルンスウィックなどの地域に行けばカナダの国旗に描かれている、大きな葉の紅葉が見られますが、ここ西部では日本のような色鮮やかな紅葉は見られません。

ボー川の川沿いには多くの公園があって自然が守られ、人口密度も低いので、静かな環境で思う存分自然の造形を満喫できます。ここに幾枚か秋の黄葉を添付したが、今年は赤い色の紅葉も少し混じっていました。グミか柳だろうか、黒い実がみっしり付いていました。しかし、こんな黄葉も十月には終わり、十一月に入って気温が氷点下 27°C になって、雪も降り、今カルガリーは雪の中、その後、気温が少し上りましたが、今朝は氷点下 17°C、美しい樹氷が現れました。

町は今クリスマス・タイムに入りました。いつもの年だと多くのクリスマスツリーが見られるのですが、今年はあまり見られません。尤も、我々が面倒になって夜あまり外に出なくなったため、目にしなくなっただけかも知れません。そのうちに「ずく」を出して写真でも撮りに行きましょう。来月はそんな写真をお見せ出来るかも知れません。どなた様も良きお年をお迎え下さい。

